

2020で最も輝いた天然皮革のプロダクトはこれ! /

JAPAN LEATHER AWARD 2020

国内のレザープロダクトにおいて最も輝かしいと言っても過言ではないジャパンレザーアワードのグランプリ。栄冠を手にした小林仁太さんと、その作品であるコインケースにフォーカスをあててご紹介する。

Text/Hiroki Anzai
http://concussion.work



2020年の栄冠を手にした力作は最新技術との共存で前衛的なルックスに!

3Dプリンタの技術を駆使したコンカッションのヘキサゴンコインケース。その名の通り、革の表面には均整の取れた凹凸が見られる。見た目にも面白いカタチは、肌馴染みの良さも兼ね備える



ベストプロダクト賞
小林仁太さん

元々、3Dプリンタのさらなる普及活動のために試行錯誤していたという小林さん。いまでは革製品の製作に力を入れている

3Dスキャンによる人工的な凹凸がクセになる触り心地!



左上/水分を含ませた革を伸ばして形状を記憶させる。デザインだけでなく、持ちやすくなるというメリットも 右上/中のコインは、フラップ部分にスライドさせれば取りやすいという機能性も実現 左下/革に形状記憶させるための基になる型。水分を含ませた革を伸ばす要領で型取る 右下/コインケース完成目前の状態

異形なコインケースの製作第一歩はデスク上から始まる!



左上/端末で完成イメージをデザインし、スキャンすることで型が作られる 右上/3Dプリンタで製作した型に、水につけたレザーをはさみこむことで革が伸び、印象的な凹凸のデザインになる 左下/右画像のプレス部拡大写真。白い型の下にある配列された1枚の革が型取りされている 右下/このようにテコの原理を利用して荷重をかける

視覚、触覚を刺激する機能的デザイン。

13年目を迎え、今年も応募総数200件以上にも及び、会場内を賑わせたジャパンレザーアワード。なかでもグランプリに輝いた小林さんの作品は、3Dプリンタという新技術を採用することによって完成する力作だ。「仕事で3Dプリンタを使える環境にいましたが、活用の幅を持たせることに頭を悩ませていて、その研究のために工夫を凝らし、たどり着いたのが天然皮革を用いたこの技法でした。いまではホームセンターで素材を購入して簡単にレザークラフトを始められる。僕自身も未経験からスタートし、いまではこの技術にファッショブランドが別注をしてくれるまでに」。独創的な形だが、実は昨年にも同様の型で作品を出展していたんだそう。「入賞に至らなかった昨年との大きな違いは立体感。改善したヘキサゴンケースでグランプリをいただいたときには、考えてきたことは間違いではなかったと自信に繋がりました。基本的に個人のオーダーを受け付けていない国内タンナーの方や、製作所の方たちの全面的なバックアップがあったおかげで実現したこのカタチです。関係者の方には心からお礼をお伝えしたいですね。」